

すすんで物事に取り組む子

～力一杯からだを動かすことの充実感を体得し、
すすんで取り組もうとする子～

1. 対象児（N・S、高2男）のプロフィール

(1) 障害名 軽度精神発達遅滞

(2) 生育歴

- ・昭和48年6月4日生（17歳5か月）
- ・出生時体重 2805g
- 離乳 5か月頃 首のすわり 4か月頃
- 発歯 11か月頃 歩行開始 1歳4か月頃
- ・3歳児検診を受けた時、ことばがなかった。
- ・8歳の時盲腸炎。
- ・家庭保育2年 ・保育園4年 ・小学校1年 U小学校 2年～6年（心身障害児学級）
本校中学部に入学 本校高等部に連絡入学し、現在に至る。

(3) 本生徒の実態

①運動能力テスト（「資料編」参照）

②体力テスト（「資料編」参照）

③諸検査

- ・知能検査 IQ48（WISK-R）

④性格、行動上の特徴

- ・家庭では、自分のことは自分でするようにしつけられており、自分のことは勿論、家事や手伝いもしている。
- ・生活力に比べて、基礎学力に劣る。
- ・慣れていることには進んで取り組もうとするが、初めてのことにはなかなか進んで取り組もうとしない。
- ・プライドが高く、失敗を恐れて物事に取り組めないことがある。
- ・優しいが、気が小さいところもあり、人前に出るとなかなか実力が発揮できない。
- ・実力を出しきって、力一杯物事に取り組むことがあまりない。

2. 各場面での実践例

(1) 保健体育〈Bグループ〉

①ねらい

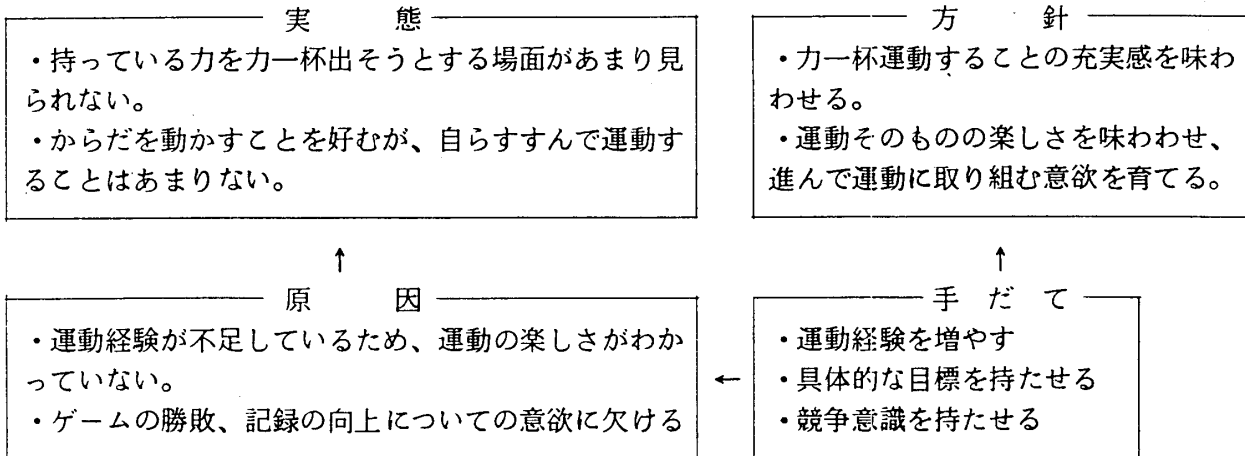
- ・力一杯からだを動かすことにより、運動の楽しさを味わわせる。

・運動経験を積み重ね、運動技能の向上と運動機能の促進を図る。

②方針と手だて

単元	はじめの実態	手だて	変容
短距離走	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識や競争心が低く、持っている力を出しきっていなかった。 ・50 m走 9秒6 (H元 4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同程度の走力の生徒と常に競い合わせた。(競争意識を持たせる) ・10秒間走、16秒間走では、常に具体的な目標を持たせた。(目標を持たせる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって力一杯取り組むことができ記録も向上した。 ・50 m走 7秒7 (H 2.10) ・自分の走力を高めようと、登校後自主的にジョギングをしはじめた。
リレー	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のチームに勝ちたいという気持ちはあるが、どうすれば勝てるのかわからなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームのリーダー的存在となり、チームが勝つために、オーダーやバトンの渡し方、もらう位置等を具体的に考えさせ意識させた。(運動の楽しさを味わわせる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝つための工夫をすることができた。 ・チームの友達に、指示やアドバイスをすることができた。

③実践例



具体的なめあての達成と運動能力の向上に伴って、自信がつき、すすんで意欲的に取り組めるようになってきた。さらに、チームのリーダーとして、勝つために考えて運動しようという意識も育ちはじめ、自分のことだけでなく、周りにも目が向けられるようになってきた。

(2) 養護・訓練 <c2グループ>

①ねらい

・集団で関わりを持たせながら、筋力、敏捷性、調整力を高める。

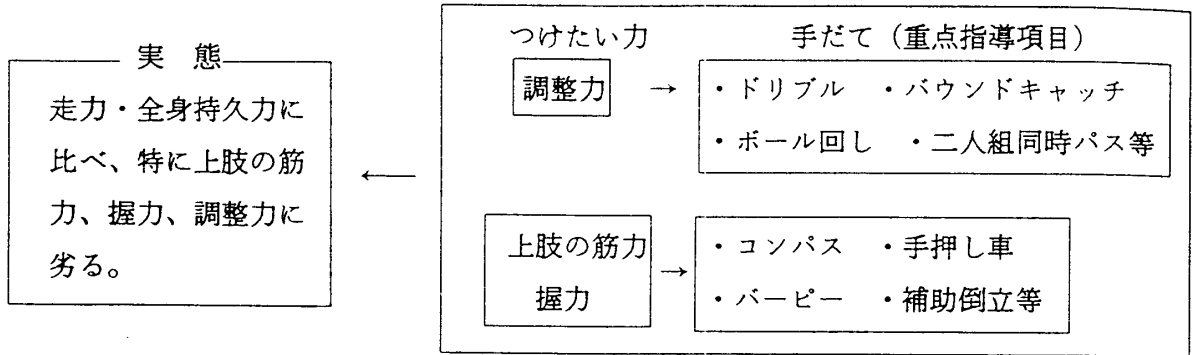
②方針と手だて

トレーニングメニュー(P134参照)の中から、本生徒の実態より次のように重点指導項目をお



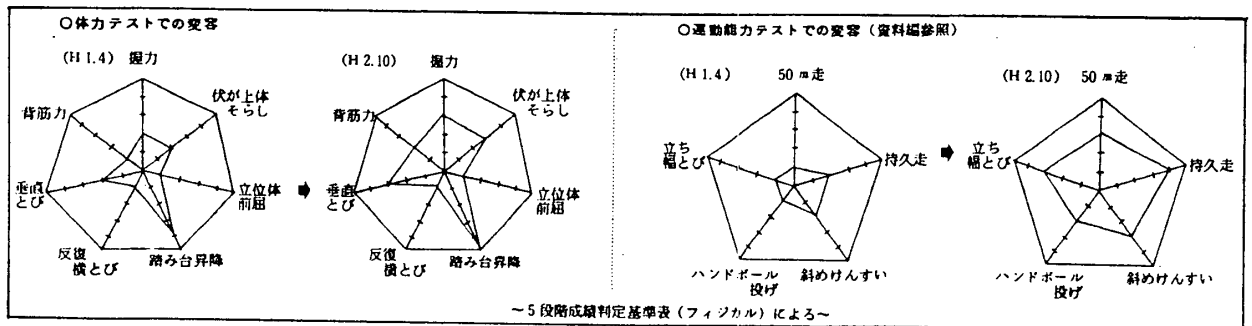
ゲームをするN・S

き、あせらずに正しく一つ一つのメニューを行うことを重視して指導を行なった。



③実践例

指導内容	はじめの実態	手だて	変容
ドリブル ボール回し等	・ボールをよくおとす ・ミスが多い。	・ボールをよく見てあせらずに、 一つひとつの動きを正しくさせる。	・タイミングを体得し、 正確にできた。
補助倒立等	・2～3秒しか続かなかった。	・手の幅を肩巾にし、頭を起こして てつぱるように体をそらせる。	・8～10秒でできた。

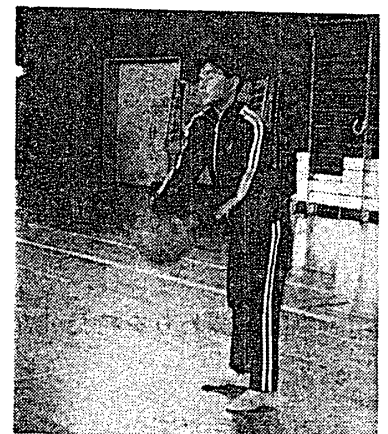


実践を続けた結果、本生徒に特に劣っていた筋力を含め、総合的に体力が向上しつつある。さらに体力を高め、社会の厳しさに耐えうるたくましいからだ、精神力を培っていきたい。

(3) 職業 〈技能グループ〉

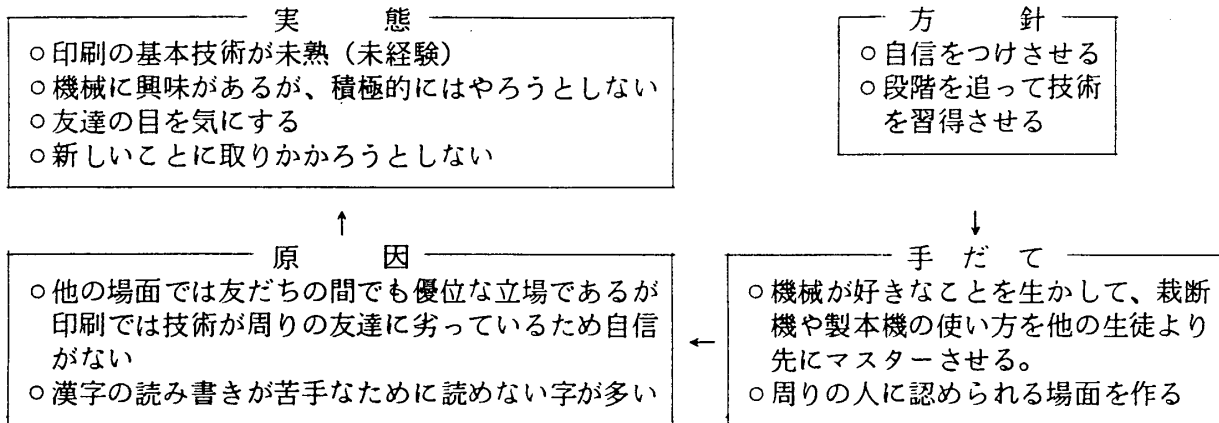
①ねらい

学習活動に自主的に取り組もうとする意欲面を重視し、印刷工程を学習する過程の中で、技術、態度、精神力等を身に付けさせる。



二人組同時パスをするN・S

②方針と手だて



③実践例

学習内容	4 月 の 実 態	7 月 の 実 態
拾 い	活字箱がうまく持てないために、すぐに活字をたおしてしまっていた。	持ち方のコツもわかり、連続して拾えるようになった。
返 し	自信がなく、常にキョロキョロし、作業に集中できなかった。	よそ見をすることがほとんどなくなり、作業に集中できるようになった。
組 み	コミの種類が理解できず、友達に確認しながら作業するが、すぐにこわしてしまっていた。	組み方がわかり、見本をみながら工夫する様子が見られだした。
メモ帳作り	裁断機と製本機の使い方を一度聞き、指導者がするのを一度見ただけで、メモ帳を作りあげた。	メモ帳用の用紙があると、自主的に作るようになった。

上記の実践の中でも、特にメモ帳作りは、本生徒に自信を持たせる大きなきっかけになった。自信ができると、周りをおどおどと気にすることもなく、作業に専念できる。このことが印刷の各工程技術の習得を容易にしたことがわかる。本生徒は就労の可能性を有しており、今後は学習意欲を“働く”意識の向上へとつなげたい。



メモ帳作りをするN-S

3. 考察及び今後の課題

各場面の実践によって、自信を持って意欲的に取り組める場面が増え、自らすすんで取り組む場面もみられだした。自信を持たせることで、集中して意欲的に取り組めるようになり、技術の習得や体力の向上が図られた。この取り組みについては今後も継続し、さらに、見通しを持って自らすすんで取り組む姿をめざしていきたい。また本生徒には、過去の周囲のひとたちとの人間関係から、周囲の目を気にしたり、時には逃げ出すといった精神的な弱さがある。これについては、卒業して社会に出ていくまでの間にできるだけ取り除いていかなければならないが、いろいろな場面で自信をつけさせていく中でも、強い精神力を養っていききたいと思う。そして、社会の厳しさに耐え得るたくましいからだを育成していきたい。

(文責 福田 嘉子)